

会議録（要旨）

会議名称：第5回 上島町学校の在り方検討委員会

開催日時：令和7年9月28日（日）9:35～12:31

開催場所：岩城支所2階 大ホール

出席委員：16名

欠席委員：2名

事務局：学校教育課

会議次第：1 開会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 統合場所の確認について

(2) 今後の検討委員会の予定

4 閉会

1 開会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 統合場所の確認について

（委員長）

前回の検討委員会では「魚島小中学校を除く小学校1校、中学校1校での統合を目指すこと」と「小学校が令和10年度、中学校が令和11年度の統合を目指すこと」のこの2つを確認した。今回統合場所について、議事に入りたい。事務局から説明を求める。

（事務局・B）

第4回検討委員会で、「統合場所」について、各地区・団体等に持ち帰り、報告していた。それぞれの意見を発表していただきたい。

（委員代理R）

D小学校PTA代表である。2点確認したい。D地区のまちづくり懇談会で出された質問事項であるので、教育委員会に確認いたしたい。まず1点、D小は耐用年数関係で、今回、外れているが、D中は耐用年数が十分ある。D中を小学校の場所にも検討してはどうかという質問があった。D中を小学校としての活用は可能かどうか。

（事務局・A）

基本的には、中学校は普通教室3、小学校は6、それに特別教室が必要である。特別教室は小学校と中学校では作りが異なるため、スムーズな移行は難しいと考える。小学校に転用するのであれば、増築や大きな改修が必要になると考えている。

（委員A）

中学校の校長をしていた。教室の数は十分ある。小学生が入るだけはある。普通教室は6つあるはず。ただ、資料室や生徒会室、会議室に転用をして使っている。小学生、D小児童が入るには、数としては差し障りはないと思う。

D中の小学校への転用は私も考える。今すぐは無理だと思うが、小学校として使えるかどうか、確認していただきたい。耐用年数、教室の数は十分あるはず。中学生が2クラスのとくに建てている。

（事務局・A）

普通教室に転用している教室について確認する。基本的に特別教室は、小学校と中学校で作りが違ふこと、確認が必要だが、中学校を小学校として使うというのが目的外使用にならないかということ、また仕様変更が可能かということを含めて、確認する必要がある。

(委員代理R)

ぜひ、確認していただきたい。もう1点、検討委員会に保育所以上の保護者代表がいるが、保育所未満の、将来学校を使用する保護者の意見の集約はどのようにするのか。

(事務局・A)

検討委員会を立ち上げるにあたり、様々な検討をした。保育所から下の世代の方の集約について、以前あった「まめっ子クラブ」のようなものを探してみたが、関係課を確認しても、現在そのような代表者がいないという回答であったため、保育所までの代表者に集まっていた。それより下の意見集約はその時には考えていなかった。

(委員A)

私も確認したい。上島町には学校運営協議会有り、学校を応援してもらっている。第1回の資料の5ページ一番上に「意見を聞く機会を設け、検討委員会やPTA、学校運営協議会での話し合いを固め、意見を集約してきた」という文章があるが、案内がない。運営協議会会長は委員に入っていない。学校運営協議会で、この議題を1回出したが、検討委員会の話は、話さなくていいのではないかという意見が出た。それはなぜか。

(事務局・A)

令和4年の検討委員会の答申に「学校運営協議会の話し合いを重ね…」ということであったが、答申内容として、PTAも含め、学校運営協議会で話し合いを重ね、意見集約してきたということである。また、令和4年のときも学校運営協議会会長は、委員としては入っていない。今回も、委員構成の中で検討してきたが、20人以内という規約の中で、様々な方の意見を出していただくために、地域代表の区長、学識経験者を入れるために、学校運営協議会会長を選ぶか、例えばPTA代表を選ぶのかということになった。PTA代表を選べば、学校運営協議会のメンバーにも入っているので、話をしていただけるということで今回は、精査した結果、学校運営協議会会長は入らなかったという経緯である。

(委員代理R)

D小PTAとしての意見を述べる。D小学校PTAとしては、小学校はC小、中学校は、D中を使用することを求める。まず、これまでの傍聴や第1回からの議事録を読み返す中で感じたこととして、C地区の保育所や小学校の保護者の方々に十分寄り添えてなかったのではないかと考えており、その点についてはお詫びする。地域から保育所がなくなる計画がある、また、全学年が複式学級という教育環境の中で、子供たちにとって何が最善かを長い時間かけて議論してこられたC地区の保護者の皆さんと他の地区の保護者が同じ状態で議論してきたのかどうか、改めて考えさせられた。

次に、D小学校保護者を対象としたアンケート結果とそれを踏まえた分析として、中学校については、D中を使用したいという意見が多数あった。その多くは、今のままではB地区に教育施設が集中し、地域から学校がなくなるという危機感から、このような多数の意見が生まれたものと推測される。通学バスの出入り、アクセスの条件を冷静に比較し、B中学校の使用が適切であるという意見もあった。

小学校については、大きく2つの意見があった。1つは、統合を進め、子供たちによりよい教育環境を整えるべきという意見で、複式学級を避け、多様な友人関係を構築し、多くの児童の中で、学校生活を送ることを望む意見であった。もう1つは、今回統合を見合わせ、D小単独で残りたいという声である。使用場所がB小となった場合の通学時間、距離が長くなることへの不安、地域から学校がなくなることによるサービスや活力低下への懸念からである。現在も検討委員会では、明確に通学方法、具体的には、行き帰りのバスの便数や課外活動後の通学バスが出るのかどうかなどが示されておらず、特に、低学年の子供たちにとって、40～50分のバス通学が負担になるのではないかとという切実な心配が、その根底にあると考えられる。この両方の声を踏まえた上で、子供たちの将来を考えれば、

統合を進めるべきと考えている。現状のままでは複式学級が避けられず、学習機会、人間関係の制約がある。3小学校を統合しても、令和10年度に120名程度の規模になることもあるが、それでも学びや友達関係が広がることは、子供たちの成長に大きな意味を持つと考えている。D小PTAが統合を望むC小にも課題はある。運動場の狭さ、特別支援学級教室の確保や学校行事の駐車場不足等である。デメリットは確かに存在するが、運動会は別会場の使用、C地区グラウンドの駐車場としての活用、教室配置の見直しなどで、解決可能だと考える。条件面だけでは、B小が適しているかもしれないが、D小PTAとしては、通学距離への不安の大きさを踏まえ、C小の使用が現実的であるという意見が多数を占めた。

今回で明確な方向性が出るか不明であるが、これはゴールではなく、むしろスタートだと考えている。通学バスの安全運行、放課後の居場所づくり、新しい学校文化の形成など、統合決定後に、準備委員会で解決すべき課題は多く残されている。今回の議論を通じて、多くの保護者が自分の考え、思いを率直に言葉にし、子供たちの現在、未来について真剣に考える機会を持てたことは、大きな意義があると感じている。私たち委員は、このプロセスを無駄にせず、次の段階へと繋げ、今回の答申を将来、正解だったと言えるよう責任を果たさなければならない。最後に、大人の都合ではなく、子供たちにとって最善の教育環境をどう整えるか。D小PTAアンケートで寄せられた不安の声を軽んじることなく、皆様が賢明な判断をされることを期待している。

(委員代理S)

D保育所の保護者会長が体調不良のため、代理出席している。D保育所としてC小を使用することを求めている。中学校はB中であつたが、統合の必要性を感じないという意見もあった。まだ保育所なので、中学校に関しては、D小、D中保護者の意見に寄り添う。C小を選ぶ一番の理由は、通学距離である。通学距離が長くなると、子供に大きな負担がかかり、親としても不安なことが多く出る。例えば、低学年のトイレの心配、通学による不快感、体調崩したり、授業に集中できなかったりである。一番の心配はバスに取り残される危険性、バスで寝てしまうことによる生活リズムの崩れである。学校に行きづらい子供にとっては、距離が長くなればなるほど、行きづらさが増すなど、様々あると思う。通学時間をC地区は30分、B地区は40分と仮定されているが、バス停までの時間、バスの乗降などを考えると、1時間を超える可能性もある。通学は毎日のことである。この不安や負担を少しでも低減するには、距離の短いC小の選択しかないと思っている。ただ、統合に反対し、現段階ではD小単独でという声も半数あった。その理由は、バスの確保が不明確であることである。通学時間が長くなることで、習い事や子供がやりたいことを諦めなければならないのではないのか。運動会の鼓笛隊、陸上の練習の送迎の負担、災害時には、遠くなるほど、迎えに行くことが困難になる可能性もある。Dに教育機関を残したいという思いもある。また、話合いのスピードが速すぎて、しっかりと話されていない。前回、Dの意見に対して、話合いが十分でなく、軽視されていると思うところがあった。不安解消に向けた話合いが行われず、このまま1校に統合していいのか。今回は統合を見送る方がよいのではないかと思うと、統合に対するメリットが少なく、負担が多過ぎるという意見が多くあった。前回、1校統合が確認されたが、各島に対してリスクの偏りがあり、D地区はそのリスクが大き過ぎると感じている。1校に統合するのであれば、リスクを分担し、歩み寄る必要があると思う。子供たちが楽しい生活を送るために、今、しっかりと話し合う必要があると思っている。皆さんの考えをお聞きしたい。

(委員Q)

D中はアンケートを取らない方針であつたが、意見を参考にしたいとのことで、9月25日にアンケートを実施した。結果として、小学校は、C小が8割を超えていた。理由は、

B小への通学時間、通学手段に関する情報提供や意見への回答がないこと、子供たちへの負担が、不安であることであった。特に、低学年の負担軽減を求める保護者の心理が表れている。中学校に関しては、7割超がD中の使用を希望している。学校をD地区に残すことにより、町内の地域バランスを保つ考え方や町民の相互交流、子供たちが各島を経験することの意義等であった。他には、クラブ活動の少人数を回避することで選択肢を保ちたいという声、B中を選択する方は、B地区のグラウンドや体育館がいいという意見もあったが、7割超がD中というのがPTAの意見である。

(委員長)

他地区の意見を求める。

(委員I)

C地区は当初から変わらず、B小・B中を希望している。今まで十分協議を重ね、発言もしてきたので、追加して言うことはない。

(委員K)

B保育所保護者は前回からアンケート等とはとってない。前回のアンケートでは、大体7割が、B小・B中という回答だった。ただ、D地区からB地区に来るのは大変なので、そこに考慮して欲しいという声は多数あった。D地区保護者、PTAから出たように、通学手段や時間は、明確に検討委員会で話し合った上で進めていくべきではないかと思う。C小、D中の転用に関しては、もう少し検討するべきではないかと思う。ただC地区の令和10年度統合の意見については尊重されるべきで、それも踏まえた上で時間を考えて検討していかなければと思う。

(委員H)

B小でのアンケートでは、B小・B中だが、どこにとっても良い統合でなければならないと思う。通学手段に懸念点を多く持っている方もいる。文部科学省は、片道22分を推奨しており、始業時間の変更や家を出る時間などの細かい話し合いをもう少ししていければと思う。また、学校としてのビジョンや教育の方針も加えることで今後の検討に反映されてくるのではないかな。今後も細かい話し合いができればと思っている。

(委員A)

一番気掛かりなところは、ここは検討委員会なので、考えられる条件を出し合うべきである。まだ検討するもの、条件が残ったままで受けてもよいのか。考えられるものを全部出し、また現地を見て、判断すべきではないかと思う。D小PTA会長委員Jは、2回目からの出席であった。先ほど言ったようなことを言うよう進言した。しかし、断られた。2回目は、委員18人中、半分入れ替わった。1回目は3月開催で、引き継ぎしているといっても、引き継ぎできてなかった可能性もあると思う。検討委員会であるのだったら、例えば通学、時間、子供のことなどここで考え、子供の安全、教育を妨げないようにする。極力、バランスよく、やりやすい状況に大人の考えで持っていくべきではないかと思う。ところが、1回目の会で、耐用年数の関係でD小が消えていた。議題にも挙がらなかった。そのような検討委員会がどこにあるのか。耐用年数が来てもすぐに使えないようになるのか。だから、その時に「B地区ありきで話すのか」と言ったはずである。その時にC保育所の在籍数を質問した。都合の悪いものは消されたのか、議事録に残っていない。保育所保護者は20人いると答えた。送迎が必要な子が20人いるのであれば、C地区で残すべきではないかと言ったはず。住民課と話し合ったと思うが、C小を使うかどうかはわからないが、C保育所代表から、保育所を早急に解決してほしいという要望書が出た。それらを考えるときに、子供を守れるのは大人の責任、教育を受けさせられるのも大人の責任。教育長も挨拶で、同様なことを言った。子供の人権を守れるのは、ここの委員である。小学生・中学生を守るべきではないか。負担をかけるようなことをしてどうするのか。

もう1点、教育上、複式学級が悪いのか。個別指導を徹底的にできる可能性もある。配慮が必要な子には細やかな指導ができるのではないか。教員数は統合しても変わらないはず。教員の負担は増える。その観点からも、場所は、C小がいいと思う。C小の対応策を言うつもりである。当面、D小中、B小中を残していただきたい。まだ、通学方法や場所の確保が全部残っている。それが確定してないのに決定できないのではないか。現場も見て検討すべきである。通学もD地区からB地区、反対も遠い。その負担をどうするのか。まして、小学生は何があるかわからない。それに対応する手段はどう考えるのかなども協議されていない。教育委員会に提案するのが検討委員会である。教育委員会から提示されたことばかり協議するのが検討委員会ではないと思う。今話してなかったら、後から要望出しても、受け入れてもらえない。

もう1点だけ。皆さんが子供を育てていくときに、何を重視するか。今、住み着いてもらえない、少子化に向かっている状況である。そこに、保育所、小・中学校がなくてどこに魅力があるのか。海があって山があって、魚釣ることもあれば山に登ることもある自然豊かなところで、幼年期を育てることができたら、素晴らしい人になるのではないかと私は考える。働き手不足の状況で若者の定着も考えてもいいのではないか。

(委員L)

何を一番に考えるかについては、当然子供である。大人のことは2の次である。通学時間について、C小学生は今50分かけて徒歩で通っていると思う。40分のバス通学が負担なのか。B小を選んだ場合、D地区から通うのに、C橋を越えてB小に行くかC小に行くかだけの違いである。各家庭の位置で出発時間の違いはあるにせよ、どちらの学校を選んでも、5、6分しか変わらない。その時間を選べない理由にされるのはよく分からない。

複式学級について経験者として言うと、最悪である。複式学級のために、修学旅行は通常6年生で行く。C小では5年生で修学旅行に行くこともあり、6年生で他校5年生と一緒に自然の家に行くこともある。教室では、後ろを向いて授業する。徹底的な個別指導も2人だったらいいかもしれない。先生1人でマンツーマンで、個人塾に行っているような感じになるかもしれない。D小も3年後だったと思うが、大方、複式学級になるはず。経験すればわかると思う。経験者として伝えた。

C保育所保護者の意見としては、一貫して変わらない。B小・B中の利用を希望する。D中は素晴らしい学校だと思っている。両学校とも見たことがあるが、設備としてB中が抜けている。D中が悪いわけではなく、B中がよ過ぎる。中学校の選択肢としてはB中だと思う。C小かB小かでは、グラウンドの広さが狭い。先日のC小運動会に来ていたD地区生徒がグラウンドを使った結果、「このグラウンドは走れない、危ない、スポーツをする環境じゃない」と言っていた。現役がそう感じている、親が大丈夫だろうと決めることではないのではないか。陸上大会がもうすぐあるが、C小は60m走のラインが引けない。100m走は練習すらできない。ソフトボールを投げると道路に出ていく。適切な環境ではないのではないか。これが適切な環境であるのなら、C小は綺麗でいいと思う。でも、今より人数が増えて、適切だとは絶対に言えないと思う。

(委員A)

自分の考えを合わせて、C小を使って保育所をC地区に残すと第1回で出された要望書に書かれていた。

(委員L)

書いていたか。

(委員A)

あったと思う。

(委員K)

1 回目の資料か。

(委員 A)

1 回目の資料である。

(委員 K)

1 回目の資料は、C 小統合に関する要望書である。

(委員 A)

自分の読み違いか。

(委員 L)

読み違いである。

(委員 A)

読み違いであつたら訂正する。C 小の複式学級解消の手段をどうするかが、1 つ残っている。

(委員 L)

だから統合である。

(委員 A)

統合するということで考えた場合に、D 小が消えている。いつの間にか B 小になっている。そこはおかしい。

(委員 L)

再三言うようだが、C 小を使うメリットがわからない。今までは選択肢がないから C 小に通わせただけで、自分たちが子供の頃も、C 小に広いグラウンドがあつたら、そこがよかったと思う。しかし、C 地区には現在の環境しかなかった。当然、D 小がまだ当面使えるのであれば、選択肢に入ってくるが、使えないと聞いている。問答無用で B 小であると言っているだけ。何かおかしいところはあるか。

(委員 A)

おかしくはないが、D 小が耐用年数のために議題にも挙がってない。今、修理や改修の方法は進んでいて、2 年 3 年ではなく 10 年はもつ改修方法もテレビで紹介されている。しかし、そういうものには手をつけないと教育委員会は提案している。

(委員 L)

お金についてここで話し合っても仕方ないと思う。それは議会と行政でやってもらえない。

(委員 A)

しかし、言っておかないと、議会に考えてもらえない。

(委員 L)

D 小改修等にどれほどかかるかはわからないが、個人的に知人を通して調べた。尾道市では、同等規模の学校を立て替えているが、既存校舎を壊して建て替えるのに 60 数億円かかるらしい。10 億円もかからないと思っていたが、次元が違う数字である。学校設備の耐震等となると、それぐらいの金額になるという話を聞いた。であれば、検討にも入らないのではないか。D 小を改修するぐらいなら、上島小学校を建てる方がいいと思う。

(委員 A)

その通りである。

(委員 L)

そうならば、D 小が選択肢から消えても仕方ないのではないか。何億もかけて直す価値はあるのか。10 年後、何人になるかわかんない。仮に 10 年後に児童数が減ったときに統合ということになると、ここでかけるお金はなんだったのかということになる。D 小が選択肢に入らないのは、仕方がないと思う。C 小と B 小の 2 択だと認識しているが…。

(委員A)

私は違う。統合によって、不登校生が出てきた時の居場所を確保してやりたいという考えが根底にある。統合すると必ず、不登校生が出てくる。その子供の選択肢を残してやりたい。その子供の行き場所がなくなるから、1つの案として、2校残せと提案した。

(委員L)

それはすごく理解できる。いい意見だと思う。

(委員A)

それをするのが大人の責任だと私は思っている。

(委員L)

しかし、どのタイミングでも同じではないか。絶対解決できない問題だと思う。何か方法はあるか。不登校生が出ない環境を作っていくのが、本当の責任ではないか。もし不登校が出たら大人の責任が問われるように考えるべきだと思う。

(委員A)

不登校を想定した検討ができたか考えたときに、やれてないので提案した。

(委員K)

D小をそのまま残すという案も検討するべきだということか。

(委員A)

その通り。

(委員K)

D保育所・小学校も、保育所は50%がそのままD小でいきたいと答えているので、検討してもいいのではないかなと思う。ただ、防災面等、デメリット・メリットはある。また、2年後にも複式学級が始まる可能性があることを含めて、D地区の今の保護者がどう思っているかは尊重されるべきだと思う。その意見を今、聞いてみたい。

(委員A)

もう1点、仮に統合したときに、今の状況で大人同士の学校に対しての協力を得られるのか。お互いに喧々諤々である。

(委員C)

それはやってみないとわからない。何年か前、C中がB中に統合になったときにも、最初はそうだったがすぐに、子供も親も…。

(委員A)

C中のときは、C地区の保護者からの要望があった。

(委員B)

要望ではなく、当時はD小と同じで、校舎が使えなくなったから仕方なくである。希望ではない。使える校舎があれば絶対変わっていない。

(委員A)

当時の委員が見に行き、話をした記憶はある。

(委員B)

歩いたら床が抜けそうであった。

(委員A)

そのような状況で、ここで学習する状況じゃないというのはわかった。

(委員B)

当時の保護者としてはここでは無理だから、選択肢としてB中しかないということになった。

(委員A)

それでB中に行ったが、不登校生が何人か出たはずである。

(委員 L)

なぜ、そこを結び付けるのか。

(委員 D)

委員長、先に進めていただきたい。後戻りしている感じで、もうこれらは終わっているはずである。

(委員代理 R)

実際に、D小を使用したとして、一番遠くなるB地区の方が本当にそれで通学が可能かどうか等も検討した上で、場所を検討して欲しい。委員Aはその検討がないのではということをお願いのではないかと。なお、地域に学校を残して欲しいというのは、どの地域も同じだと思う。しかし、それ言い出したら検討委員会、在り方のことは話が進まないと思う。ただ、一番求めている、知りたいところは通学の不安である。その解消がされないまま話が進むのが、不安で、心配である。確かに40～50分の通学が大丈夫な子もいる。でも、それが不安な子供たち、保護者の不安が取り除ければ進む話なのかもしれない。先ほどの地域に学校を残したいというのは当然である。現在、各島に学校はあるが、上島町になっても20年経った。本当に議論すべきは現実的に子供たちが安心して登校できるかというところではないか。そこの不安を払拭して欲しい。

(委員 D)

そういう文言を答申案の中に入れて、次の準備委員会で大きく進展させるという方向がいいのではないかと。ここで細かいことを決めるのは難しい。あくまでも検討委員会としての意見を教育長に出すべきではないかと。それで決定するわけではない。次の段階に持っていく。だからここで、意見集約して、この会で出たD地区の意見を引き継いでいけばいい。

(委員代理 R)

委員Dが言われることはよくわかる。ただ、答申内容が決定ではないのもわかるが、これだけ関係者が集まって出した答えを覆すことはなかなかできない。ある程度この委員会で出された意見は通ると思う。だから最終的に通学不安の払拭ができれば、納得できる人は多いと思う。ぜひ、払拭していただきたい。

(委員 D)

具体的にバスを何便出して欲しい等を決めて欲しいということか。

(委員 A)

通学に関しては、バスの確保ができるかどうかが一番の問題ではないか。

(委員 D)

そこもこの会で決めるべきか。

(委員 A)

いや決めるのではなく、要望として、項目として残して考えてもらおう。それも出てないのに決定というからおかしいのではないかとやっている。

(委員 D)

準備委員会でいろいろ決まっていくと思う。通学に関して一番重要なことになると思う。提言書の中にもそういうこと入れるようにしたらいい。

(委員 C)

今回、5回目だが、前回決定と認識しているのは「小学校1校、令和10年、中学校1校、令和11年」である。後戻りはできない会議をこれからしていくと認識し、今日の会議に臨んでいる。今、いろいろ話し合っており、皆さんの意見も検討されてきたと思うので、ここは、この検討会議の意見を集約し、小1校中1校を決めてから、委員Aの言われるように要望をまとめて、町の方に持っていく会議をして欲しい。今、委員Dが言われたように準備委員会の方で続きをやってもらう方がスムーズにいくのではないかとと思う。

(委員 P)

B 中 P T A。質問であるが、冒頭の D 中を小学校に転用する案は、これから調べて、返事をまち、1 つの検討事項としてこの委員会で考慮していくのか。そうなると、会の回数も足りず、振り出しに近い。今まで何回も何年前かもやって、今回第 2 期の半分でメンバーが入れ変わっている、共有できてないというのは、現実その通りだと思う。アンケートは子供の都合を優先するということで、100%ではなく、場所の問題も 100%はないので、よりよい大人が知っている知識の中で、環境を考え、比較することが避けられない。それを検討する場だと思っている。結構、後戻りしている感覚はある。今日、結論を出すという思いで委員会に来た一人である。委員 C が言われた 1 校 1 校に決めて答申書を出す必要があるのであれば、それに向けて話し合う必要があるし、この検討委員会として、2 パターンあるとするのであれば、2 校に絞って次の委員会に上げ、審議してもらう形にする。いずれは決定しなければいけないことだと思うが、ここで小 1 校、中 1 校に絞ると、賛成できない方が何割かいる。それはどんな会議でも同じであるが、在り方検討委員会としては、答申書で 1 校 1 校で絶対にあるべきなのか。いろいろな環境、人、現場の意見は、十分出されたと思うので、また 1 つ上の段階で決めてもらう。この在り方委員会は決定ではないと何回も聞いた。2 択などの決めてない状態で、通学については準備委員会で解決されないことはないと思う。支援員配置、低学年への配慮、便の確保、時間の検討など準備委員会で協議すると思うので、小 1 校中 1 校に絞る必要があるのか伺いたい。

(委員 K)

おそらく第 3 回目のときに、1 小 1 中の流れで進めるというようになったと思うが、決まりではなかったと記憶している。前回も D 小・保育所に 1 回持ち帰って話し合う話で前回終わった。そこからいろいろな意見が出てきて、それを遅いとか、今更と言ってしまうと、あの時間はなんだったのかとなる。だからこそもう 1 回、揉まれるべきだと思う。遅くなってしまうかもしれないが、ちゃんと検討した上での答申書になるかなと思う。ただ、C 小の統合に関しては、令和 10 年度の最短でと言われているので、前回、教育委員会は結論を年内に出してほしいと言ったので、振り出しに戻すわけではないが、今、D 地区の意見が出てきたので、それも含めて話し合うべきではないかと思う。いかがか。

(委員 P)

1 校 1 校に決める必要があるかというのは、今出ている B 小・B 中、C 小・D 中または B 中だったり、1 つの結論を答申の中で上げる必要があるのかということである。

(事務局・A)

事務局の考え方としては、統合を進めていくのであれば、以前確認したように、A を除いて小中 1 校で、児童生徒の教育環境を考えるのであれば、1 校 1 校でお願いしたいと思う。提言書に関しては、こういう意見もあったと入っていてもいいと思うが、検討委員会として、「〇〇小学校、△△中学校への統合」というような、ある意味の結論は欲しいと思っている。

(委員長)

さて、いろいろ意見が出ているが、このまま停滞もできない。この後の例えば準備委員会で話し合いを進めていかなければならないのも理解できるし、現在新しく提案された案もある。いくら進めていっても先に進まないというか、結論まで行きにくいと思う。各校についていろいろ意見もあるし、また、地元に残して進めていくという考えもあったが、このままでは先に進まない。今後の会の進行について、意見はないか。

(委員 A)

多数決等で、絶対 1 つの案に絞る必要があるのか。いろいろな意見を次の会議、例えば準備委員会に申し送るというような話し合いではどうか。

(委員D)

それだと、教育委員会の意見になってしまうのではないか。先送りではなく、この会議の意見の結論を出した方がいいと思う。

(委員1)

今回配付の資料に、答申書(案)が添付されている。ここに今、統合を目指すこと、〇〇小学校・〇〇中学校を活用することが適当であるという雛形ができています。ここには何かしらの小・中学校名を入れるべきではないかと思う。そして、最後に様々な意見、例えば3番目のとか、違う意見があった等足すぐらいならいいと思うが。もう4回も5回も集まって、何も決まっていなと思われのは避けたい。答申書にはちゃんと記載した方がいいかと思う。

(副委員長)

毎月1か月ごとにこの会があり、保育所も小学校も保護者会を開き、アンケートをとったりしながら、意見を集約し、不安がないようにと話し合いをしている。他の地区はそれを先にしていたと思う。D小P副会長(委員代理R)が言われた通り、D小が少し遅かったかもしれないが、今一生懸命やっている状況で、心が追い付いていない。子供が「統合は…」と言っている部分で、今すぐ決まることによって、不登校になったときの不安も抱えているという声も聞く。毎回話し合って不安点を出す、それが聞き入れられないままの検討委員会になっている。バスへの試乗等少しでも不安がなくなるような前向きな意見ではなく、前回と一緒にと言われるが、回数を重ねて話し合いをしている。少しでも意見を汲んでいただけるとありがたいと聞いていて思った。前に進まないのは、申し訳ないし、C小が、統合していきたいという気持ちも重々わかる。本当だったら、C小に集まって会議する等、いろいろな会場を使って、実際にそこでやってみてどうなのかでもよかったのではないかと考えた。一生懸命、会を重ねて話し合ったが、全部は聞けないのは確かだが、思いを汲んで欲しいなというところもある。

(委員A)

気になるのであるが、一番急ぐのはC保育所ではないか。

(委員D)

この場で保育所の話はしなくていい。小・中学校の話をする場である。保育所は、保育所で話を進めている。

(委員A)

保育所の場所がC小学校へとなったら…。

(委員L)

誰もそのようなことを言っていない。

(委員A)

そういう風になったら…の話である。

(委員L)

ありもしないことを広めないでいただきたい。風評被害である。

(委員A)

C保育所は、どうなるのか。

(委員L)

C保育所はB保育所に行くか、D保育所に行くか選べる。C小学校がB保育所になるとかそのような答申書は出してない。

(委員A)

C地区の小学生もそうしたらいいかがか。

(委員L)

どういうことか。

(委員A)

C小学生も、例えばB小に行くとか、子供の行きたい方に選択して行くとか。

(委員L)

保育所と違うので、校区がある。理由がないと校区外に行けないと聞いている。

(委員A)

今、現に行っている子もいる。

(委員L)

理由があるのではないか。

(委員代理R)

答申案にも、通学バスの運行体制の充実が不可欠としっかりうたってはもらっている。それはありがたいことだが、これが不安解消に繋がっていない。副委員長も言われたように不安である。鶏が先か卵が先かではないが、準備委員会でしっかりそこを踏まえた検討をしてもらうのも大事だが、その前に、具体的なこと、運行体制等が見えない中で、小1校、中1校、場所も、D地区から一番遠いB小・B中を使用すると、その不安解消をできたらこの検討委員会でしていただきたいというのが一番である。会を遅らせる意図はない。この不安な部分をぜひ、この検討委員会の段階で払拭していただきたい。すぐできるようなものをぜひ検討いただきたい。

(事務局・A)

スクールバスの件について、まだ決定に至っていないので申し上げられないが、教育委員会担当課は様々なシミュレーションを行っている。統合先がどこになったとしても、現在の保有台数では、通学をすべて賄うことは困難である。今後、町有バスの活用や新たな導入を含めながら検討している。数日に結論が出るという問題ではないし、教育委員会だけでも結論を出せる問題ではないので、関係各所、検討に加わっていただきながらやっていく必要があるため、統合先が決まって、準備委員会等で話をしていくのがスムーズな検討になるというふうに思っている。ただ、準備委員会で提案ができるように準備を進めている。どこになっても、現有台数は3台で、すべてを賄うことは厳しい。新たなスクールバスの導入、運転手の確保、町有バスのダイヤ、デマンド等の方向性も加味しながら考えていかないと厳しい問題であるので、今ここで検討と言われても、数日後に結論が出せるかというレベルではない。当然、統合したときには、スムーズな運行ができるような体制を教育委員会の責任としてやっていく必要があると考えている。

(委員代理R)

確かに、現段階で教育委員会が詳しい案を出すのは難しいのは重々わかる。配慮されると言われるが、その配慮がどこまでかが見えない。例えば朝、D小の子供たちが、仮にB小に行くときに本当に2便、2台、1回行ってまた帰ってきてとかそういうのを解消してくれるのか。下校は学年によって時間が変わるが、そのときにしっかり、学年に合わすとか。放課後の課外活動、今はD小では出してもらっている部分もあるし、基本的には親の送迎になっているが、D地区内に学校があればできる部分があるが、仮にB小になった場合に、この負担感が保護者目線としたらある。それが確実にスクールバスで、子供たちも、課外活動の方も送迎してくれる、中学校でいえば部活動の行き帰りのフォローをきちんとしていただけるのかどうか。声が出ている。本当に、今、D中でも部活動は選択制になっているので、現状では入れても、仮にB中になった場合に、部活後の便がない場合、子供たちに部活を諦めさせなければならないのではないかという不安もある。確保してくれるのかどうか。そういう不安感である。

(委員D)

C地区からD中に通ってクラブをしている生徒のバスの現状についてどのようになっていのか教えていただきたい。自分が聞いた分には、B中に通ってる子供たちが部活動終了後、連れて帰ってくれるという話を聞いている。

(事務局・A)

D中に関しては、バスは出していない。B中に関しては、部活終わりにC地区等に向けてバスは出ている。部活後もバスで帰ることができる。

(委員D)

当然、統合した場合にも、そういうことは考えるか。

(事務局・A)

今の体制を維持していくというところで検討している。

(委員D)

つまり、D地区の子供がクラブをしても、帰る便は確保すると言っている。

(委員代理R)

今後、部活動は地域移行になっていく。要は部活動ではなくなってくる。部活動では確かに学校の範囲内であるが、地域移行になった場合、それも確保されるのかどうか、懸念点は生じる。今はしっかりフォローしているのはわかる。仮定の話で、教育委員会も言いづらいのもわかる。現状を考えると、中学校部活動は、なくなって学校から切り離し、地域でのクラブ活動という形で移行していく段階だと思うが、そうなった場合にも教育委員会として確保してくれるのか。

(事務局・A)

今まさに地域移行、地域展開は土日の移行に関しては、2つの部が移行できている。現在、もう1つ、部活動を来年度から移行できないか検討している。まずは、土日の部活動を地域に移行していく。平日については、今後どうしていくかという話で、どういう体制になるかまだ見えないし、今の部活動の時間に地域の方が関わっていただけるのか、もしくは、夜間になるのか。それによっても、対応の仕方は変わってくるので、なかなか地域展開後にスクールバスを出せるかどうかは、今の状況では答えられない。

(委員K)

その不安を払拭する1つの案として、C保育所とB保育所で統廃合の話合いのときに、もし統廃合すると、どのくらいの金額を子供にかけられるか説明をして、納得された親もおられた。例えば1校化することで、予算的なものはどうなるのか、1校にしたらその分教育にかける金額は下げていく方針なのか。その発言があるだけでも、お金がかけられるのであればバスやD地区の方が、納得するような対策を講じてくれるのかという意気込みのようなどころかと思うが。

(事務局・A)

一概に統合後に、仮に浮いたお金があったとして、教育に全て入れるということは、町全体の財政の兼ね合いから、わからないが、今の教育環境を下げるつもりはない。これは意識しながら、お金をかけるところは、かけていく要望はしていきたいと思っている。ちなみに小学校1校平均年間で約1300万円、中学校で1400～1500万円かかっている。これが1校1校にかかっている、統合したら、廃校になったところの1400～1500万円が浮くかというところでもない。共通する予算等いろいろあり、一概に増減するという話ではない。ただ、今の教育の質を確保・向上することを目指しながら、予算化したいと考えている。

(委員H)

通学の他にも、地域性のある取組、地域との連携や交流はどうなるのか不安もあった。また、不登校のサポート・支援が必要な児童生徒への配慮、人数増により今よりも子供た

ちに寄り添いができるかどうかという不安も多くあった。その中で、資料として話を学校運営協議会会長さんから地域や不登校について意見を聞きたいと思う。

(委員長)

事務局としてどうか。

(事務局・A)

配慮を要する児童生徒・地域について教育委員会も、もちろん対策していかなければならない案件になる。この検討委員会で入れるという話になれば、提言案に入れいただいても構わないが、どのような形でどう入れるか。いずれにしても、提言案への記載の有無にかかわらず、教育委員会として、考えていかなければいけない案件・課題である。提言案に入れていただいてもいいが、なくても、我々としては、考えていくところである。

(委員K)

補足であるが、委員Aも言われたように、学校運営協議会の方、実際不登校児童に対して関わっている方など、有識者の方もおられるが、この場には呼ばれていない。子供のためを考えたときに、ぜひ検討委員会で検討して、提言書、答申書に載せた上で、ぜひ準備委員会に移行すべきと思う。教育委員会も、入れても入れなくても考えるということだが、知る機会にもなるので、B小PTA会長が言われたように、招聘して、現状を聞くのも必要ではないか。その上で答申書に文言を入れる等検討もしていくべきと考えるが、どうか。

(委員L)

大事なことだと思うが、どこの小・中学校を使うことと直接的には繋がりはないと思う。委員長、最終的に統合パターン4つが絞られているが、決定方法はどのようになるか。多数決を採るか。

(委員長)

最終的には、決を採らないといけないと思う。決を採る方法は、投票するだとか、いろいろあると思う。今、統合パターンとして4案出ているが、D中を小学校に転用する案が出ているが、今回、時間的にも足り苦しいが、委員のお考えを挙手ではなく、意思をこの中から選んで書いていただくというそういう方法もあると思うが。

(委員L)

各代表で来ているので、透明性があつた方がいいと思う。記名でいいのではないかなと思う。ここに集まっている委員は人の意見を聞いたからといって、気持ちは変わらないと思う。だから、いつ決を出すのか、意見が変わらないのであれば早い方がいいのではないかな。例えば、B中とD中とどちらになるか決まってない状態で教育委員会が、バスを両中学校から出す全部を上げないといけない。無駄な作業も発生する。せめて1校を決めて、それに対してバスの不安をどう解消してくれるか、教育の質はどうか話した方が効率的ではないかなと思う。いつまで決を遅らせても意味がない。決を採ってしまえばいいと思うが…。

(委員長)

決を採る方向でよろしいか。

(委員K)

決は今日に関しては反対である。今日、D地区の話を聞いて、C小・D中案とB小・B中案と大きく2つに分かれたと思う。その2パターンであれば、バスの案が出ると思う。4パターンすべてを対象にするのではなく、この2パターンでもう一度協議してもいいのではないかなと思う。

(事務局・A)

スクールバスの件については、これを2パターンに絞ったとしても、すぐに示せるものではない。今のスクールバスで対応できるものであれば、ある程度お示しできるが、いず

れにしてもスクールバスだけでは対応できない案件であるため、時間が掛かる。

(委員L)

最終的にバスが出ないという答えはない。難しくてもスクールバスは運行し…。

(事務局・A)

その通りである。

(委員L)

せめて、D小使用案を消して、今でいう1（B小・B中）と4（C小・D中）の2パターンまでは確定か。この2パターンのどちらかにするという話までの決だけでも採らないか。また、会議がバックしてしまう。

(委員長)

今の提案でなるが、統合場所について、1のB小・B中、4のC小・D中でどうか。

(委員L)

皆さん、意見を持っていると思うが。

(委員D)

今日決めるつもりで出席している。ここまでは今日決めるべきだと思う。

(委員C)

もし、紙に書いて番号を書くとしたら、4つ入れてもいいのではないか。

(委員L)

多分心の中で決めていると思うので、1でも4でも、1～4でも一緒である。

(委員長)

それでは統合案1,2,3,4の中から1つ、選ぶという形を取らせていただいてもよいかな。

(委員代理R)

会議の進行や、C地区の気持ちを踏まえると期限が決まっているのはわかる。一方で、D地区の意見・不安が、現状の説明で解消されていない。しっかり配慮してくれると思うが…。準備委員会でも、ネックな部分をうたっている。今、決を採らないと、具体的な形・案を示すことはできないか。先にそれを出してもらい、最終的に在り方検討委員会での方向性を出すのでは遅いか。

(委員D)

ここに至ってはそうではないか。

(事務局・A)

例えばバスの運行について、ある程度、固まったものを出し、今回の提言案をまとめるということになると、令和10年度の統合は難しい。これから、複式を解消したり、統合をスムーズにしていくために事前に決めたりとか、2年でできるかどうか未知であるので、さらに、時間を要する、難航することも予測される。まずバスの案を出して、バスの在り方で、提言書をまとめて、10年度に統合というのは、時間的に厳しいと考える。10年度に統合であれば、前回、前々回、今年中にはと言ったが、なるべく早い段階で、今年のなるべく早い段階で方向性が出て、それに向かって、準備委員会を立ち上げ、協議をしていかないと、おそらく間に合わない。バスを先行して決めるとなると、すべての統合パターンでバスの編成、シミュレーションをして、町有バス、購入をどうしていくのかを決めて、購入になるとまた財源確保等いろいろなことが出てくる。すぐに、その答えを出せるかというところ、なかなか厳しい。出せるのであれば、もうすでに出しているが、それに至っていないというところで、まだまだ時間がかかると思っている。

(委員L)

C保育所もC小学校も不安がないわけではない。ただ、押し殺している。言いたいこともたくさんあるが、ここで今言っても会議が進まないだけで、我慢しているところはある。

バスの不安は同じく抱えている。1番になるか4番になるか未確定なのに、1番になる想定で議論しても何にもならない。先にそこだけでも決めたい。

(委員長)

それでは一度、検討委員会として、順位を付けておきたい。それで、投票という方法で進めて、方向を少しでもはっきりさせたいと思う。事務局、よろしいか。

(事務局・A)

この場で決めることに備えて、投票についてある程度の準備はしている。委員長提案の通り、投票、優先順位を付けていくことで構わないか。

(委員代理R)

構わないかと言われれば、構うんだが…。

(H委員)

B小学校だが、個人の意見になるが、効率や時間が厳しいというよりは、子供たちのことを考えた会にしたい。懸念点であるバスの運行、不登校、地域との関係性をもう少し見える形にさせていただいてからの判断をさせていただきたい。採らない方向で願います。

(委員代理S)

令和4年の検討委員会で、「遠距離通学や地域から学校がなくなることへの不安が強く、現段階での統合は難しい」という話で終わっていたが、今と変わらない。何が解消されているかわからない。不安を挙げたが、解消という部分では改良されたと思っていない。急ぐ気持ちも理解している。ただ、決を採ることに賛成は難しい。質問だが、統合にあたり学校施設を新築する資金は上島町の財政状況としてはどうか。

(事務局・A)

それに関し、以前も回答したが、使用可能な既存施設がある状況で、新たに学校を建てるという考えは、財政状況も含め、教育委員会では考えていない。

(委員代理S)

グラウンドを広くすることも含めてか。学校全体を建て替えるのではなく、C小のグラウンドが狭いと言われているが、D地区からはC小が距離的に近い、負担が少ないという思いだが、グラウンドを広くするのは、難しいのか。

(事務局・A)

C小に関しては、物理的に無理である。

(委員I)

場所が決まってないのに漠然と不安と言われても話しにくいと思う。場所が決まって、明確に不安が出てくる。まず場所を決める決を採ってもらいたい。

(委員代理R)

今の流れでいくと、B小・B中になりそうだから、不安だとお伝えしている。決を採って、例えばB小・B中になり、距離の問題で不安だと言っても、遡ることができない。当然できない。

(委員I)

決を次回に持ち越しても、結果は変わらない。今まで話を重ねてきて出した答えを私は変えない。今採ろうと次回採ろうと結果は一緒だと思う。早く採って、できた時間で不安を解消するための話をした方が有意義ではないかと思う。

(委員L)

前回、D小は持ち帰って会議をするので、決は採れないと言って帰った。持ち帰った結果がこれだといつまで続くかわからない。

(委員代理R)

両委員が言われていることはよくわかる。そこで、D地区の不安を示している。そこを

配慮してくれるとは思う。十分寄り添った準備委員会をしてくれるのは、わかるが…。

(委員L)

気持ちはわかるが、それぞれアンケートを採っているはずである。少なくともPTAの考えは変わらないはず。いつ決を採ろうが、答えだけは変わらないと思うので、早く前に進んでいただきたいと思う。

(委員K)

各委員のおっしゃる通りであるが、今日の始めから、D地区の保護者の話が出て、今でもグラウンドを広げることにはできないかという話が出たように、まだ不確定要素がたくさんある。それが解消されるかどうかで、統合パターンの答えも違ってくる。そこで自分としては今日決を採るという気持ちではない。まだまだ不安要素がある。確かに時間的な制約があるが、また次回でどうか。また次回までに、どちらのパターンにおいても、D地区から要望書というか、具体的などところを出してもらって、パターンを決めた上でどちらのパターンでも答申書がつかれるような流れはどうか。

(委員L)

一緒だと思う。

(委員D)

不安の項目としても、今まで出ているような、C小グラウンドの狭さ等、もう決まったことの繰り返しの質問である。物理的にできない、財政的に厳しい、バスは出すということを書いて。次回やろうが、その次にやろうが一緒ではないか。

(委員K)

物理的に絶対に変えられないところと変えられるところがある。前回質問した内容では、始業時間は変えられるとのこと。グラウンドが絶対変えられないのであれば飲み込んで、次を考えることだと思う。それを先にスッと決めてしまったらそこからの検討はできない。あらゆることを考えて検討した上であればいいが、結局1校にして、後々D小が使えるらしいとなったときに、大人の議論ではなくなってしまう。あらゆることを考えた上だと思う。決定する因子として、弱い。

(委員D)

D小は使えるのか、使えない。

(事務局・A)

第1回目から答えているが、D小については、令和9年度で上島町の耐用年数である60年を迎える。直ちに使えなくなるわけではない。ただし、それなりの調査が必要になる。調査結果がNGで使うのであれば、当然、改修する必要がある。ただ事務局としては、他に利用可能な既存施設、校舎があることを考えると、耐用年数が来るD小に大規模改修という多額のお金を入れる予定はないと回答している。

(委員L)

1ヶ月後に開催したら、どういう意見が出てくるのか。また、D小復活という話をするのか。それとも、この4パターンで決めるのか。

(委員D)

そこまでいったら、1度、この検討委員会を閉めるべきではないか。

(委員L)

各委員、それぞれ忙しい中、埋め合わせて出てきている。

(事務局・A)

先ほどのD小の大規模改修でお金を入れないという根拠について話をしているが、単にD小にお金を入れないという教育委員会の方針と捉えられてもいけないので補足する。上島町は公共施設の計画を立てており、個別施設計画の中にこの計画策定時で、51年以上経

っている施設については大規模改修を行わない計画で、その当時、D小はすでに53年経っている校舎であったので、この計画に基づいて、大規模改修は行わないということである。ただし、例外があり、仮に校舎1校しかなかったら、大規模改修をしてでも長寿命化させるか、建て替えるかとなる。今回は、既存施設で使える校舎があるため、51年以上経っている校舎なので、計画通り大規模改修は行わないという方向性を出している。

(委員代理R)

この4案以外の、例えばD小を残すとかの案が出ないかどうかは、やはりそういう思いを持たれる方は多い。不安感の払拭がまず、一番である。1カ月延ばしても結論は変わらないと思う。一番求めているのは、不安感の払拭で、それが消えないと同じ話し合い、同じ問答になると思う。

(委員E)

D小PTA、D保育所、D中代表の方は、7割、8割がC小を希望している。中学校はBへという意見もある。その中で、B地区についての不安が出された。不安はバスが動くかどうか、時間が長く子供たちが大丈夫かの2点が何回も出されている。まずバスの件について、小学校であれば、スクールバスは、絶対的に動かすという方向。ただ時間帯は、今後の協議である。絶対バスを動かさないというような方向ではない。遠いところは時間が多少かかってくる。B地区に行くのであれば前回言われたように、40分～50分かかる。それを低減するために、C小にすれば10分～15分減るのではないかという考えもある。これについては解消できないが、近くてもバスには乗らなければいけない。これも念頭に置いてもらいたい。確かにバス酔いする人がいる。車が嫌いな子もいる。しかし、普通買い物に1時間ぐらいかけて行くこともある。極端すぎるが、40分～50分のスクールバスはだめなのかと捉えてしまう。

その他に関しては、すべてが揃っているのがB地区である。グラウンドは広い、校舎は高台にある。C地区は校舎は新しいけどグラウンドが狭い。グラウンドを広くするのは不可能である。一番は、通学、子供の負担がかかるという問題が一番ネックになっている。

(事務局・A)

質問であるが、D保育所、小学校、中学校ともC小の使用ということであったが、バスの不安とはどの部分なのか。C小でもB小でもバスは必要になる。違いは、C地区よりB地区は若干時間が長いことと、場合によったら若干スタートが早くなる可能性があることだと思うが、不安になっている部分は、どの部分なのか。

(委員代理R)

バスに乗る距離である。

(事務局・A)

であれば、仮にB地区になったと仮定した場合に、距離、時間が不安材料となると払拭できない。

(委員代理R)

物理的に距離は縮められないので、おっしゃる通り。不安なのは、本当に対応してくれるのかということである。どれぐらい確保してくれるか。多くの方が言われる準備委員会でしっかりと揉めばいいというのもおっしゃる通り。しかし、そこがまだ現段階で見えない部分が不安感に繋がっている。

(事務局・A)

バスの確保ができるかどうかは、C小でも同じである。C小ならよくて、B小だったら距離的に心配されているが、バスの確保という意味では、どちらも同じこと。その解消は具体的には不可能である。

(委員代理R)

おっしゃる通りだが、C小までは許容できる距離である。B小だったら、課外活動まで確保してくれるのかどうか。当然、D小でも結構遠い地区もあるが、そこに住んでいるし、許容しなければならないと思う。課外活動もバスが確保されない中で、小学生を迎えに行くのが、C小までとB小まで行くのは、不安・負担にも繋がる。具体的に距離である。

(委員L)

それは保護者の方で、子供は関係ない不安である。子供が大事ならできると思うし、不安な点でもないと思う。

(委員P)

C地区に行くにもB地区に行くにもバスには変わらない。不安材料とそれに対する細かい要望をしっかりと挙げることはできるか。

(委員代理R)

不安なことは出ているが、それに対する要望を具体的に持ち合わせていない。朝の便数、時間、帰りの便数、何台、課外活動間までの確保等具体的な要望はまだ取りまとめていない。

(委員P)

時間をかけてゴールを10年度に決めなくてもいいのではとも思うが、耐用年数を理由に10年度からという目安をこの検討委員会が立ち上がるときに根拠として示されていると思う。不安と要望はどの地区でも出ているので、バスに関して長い時間をかけているが、詳細を要望として挙げるしかない。「今ある教育の質を下げるつもりはない」と教育委員会は、答えているので、要望を出すのは、場所を決めてからでいいのではないのかと思う。

(委員長)

時間も随分過ぎてしまった。申し訳ないが、途中ではあるが、ここで切って…。

(委員B)

今まで話ではバスの話しか出てきていないが、今日（外部団体から）提供された資料によると、令和10年度以降、D小の2年生から5年生は複式で、以降ずっと続くことになっている。今回はっきり決めないと、2年先、保護者として複式でいいのか。これについての意見が全然出てきていないが、どうか。

(委員代理R)

この資料のことは、今日もらったばかりでわからない。D小保護者の中でも、もちろん統合を望む意見があり、下の学年にいけばいくほど、複式に対する不安があるので解消して欲しい、統合して欲しいという意見がある。D保育所にもその傾向はあると思う。

(委員長)

時間もあるので、今日の会議は途中で申し訳ないが、切りたい。事務局へ返す。

(委員L)

時間と言うが、決を採らないという意思表示したのは3人だけである。この状況で決を採らないとなると来る意味がなくなる。

(委員長)

それでは、決を採る方向でよろしいか。

(複数委員)

採るべきである。

(委員長)

時間はオーバーしているが、決を採る方向で、事務局へ。

(事務局・A)

決を採るということで、いろいろと皆さんの正直な意見を採りたいので、投票にしたい。一応記名投票にはするが、どこに入れたかは、非公表にし、正直な意見を反映していただ

きたい。よろしいか。

(複数委員)

賛成。

(事務局・A)

本日の出席委員 16 名で、委員長を除いて 15 名で投票をさせていただく。立会人の指名については、委員長にお任せする。

(委員長)

立会人は、名簿の 1 番委員 A と 2 番委員 B を指名する。

(事務局・A)

これから投票用紙を配付する。この投票用紙には、各小・中学校すべての学校名が入っていて○を入れる箇所があるので、1 か所に丸印をつけていただきたい。中学校も同様である。判定しづらいもの、白票は、無効票として扱わせていただく。表は 1 つであるため、例えば小学校は○があるが、中学校はないとなると、小学校は有効、中学校は無効とさせていただきます。

まず、投票箱の点検をお願いします。

<投票用紙の配付>

ただ今から投票を行う。席順に投票箱を持っていくので、入れていただきたい。

投票漏れなしと認め、投票を終わる。

続いて開票を行う。

<立会人・開票>

投票結果が出たので、委員長にお返しする。

(委員長)

統合場所についての投票結果を発表する。投票総数 15 票、有効投票 15 票。有効投票のうち小学校は、弓削小学校 10、生名小学校 4、岩城小学校 1。中学校は、弓削中学校 11、岩城中学校 4。従って、統合の場所として、弓削小学校、弓削中学校を活用することが望ましい旨、提言書に記載することに決定した。

(2) 今後の検討委員会の予定について

(事務局・B)

次回、提言案の検討を行いたい。次回、10 月は各地区のお祭りや D 地区の運動会等があり、どの日曜日でも開催には不向きと考える。そこで、A 地区には事務局から連絡することを前提に、平日の夜間の開催を提案したい。詳細は早急に調整し、案内させていただく。10 月中の平日の夕方、19 時ころからで予定を組ませていただきたい。

4 閉会